

「映画を創ってみよう!!」実施報告

「仲間との思い出と仲間への想いを3分間のショートmovieに」

- 1 趣 旨： 子どもたちが実際に映画創りを通して、自分の思いを伝える力や相手の立場に立ち考える力などのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。また、創った映画をアジア国際子ども映画祭に出品することを通して、子どもの文化芸術体験活動の普及啓発を図る。
- 2 日 時： 平成29年7月15日(土)～17日(月・祝)
- 3 場 所： 国立淡路青少年交流の家
- 4 対 象： 小学4年生～高校3年生 6組（1組5名前後で申込）
- 5 参加者： 7組35名(小学生 男性5名、女性30名)
- 6 講 師： 藤岡 文博 氏（兵庫県立小野工業高等学校）
馬田 めぐみ 氏（KAOプロモーション）
- 7 ボランティア
神野 卓也 （吉備国際大学）
植田 滉基 （吉備国際大学）
寺井 栞 （徳島県立川島高等学校）
寺井 優香 （徳島県立川島高等学校）
原 直子 （兵庫教育大学）
伊吹 史也 （兵庫県立洲本実業高等学校）
岩崎 祐生子 （大原簿記専門学校）
- 8 プログラムの内容



～1日目～

講師2名、ボランティア学生7名のサポートのもと、7組35人の小学生たちと2泊3日の映画創りがスタートした。講師、ボランティア紹介の後、自分たちのグループの紹介をした。「どんなグループの集まりか」「楽しみにしていることは」などの質問に、保育園からずっと一緒、吹奏楽部の仲間など、皆が仲良しグループという事が発表からも伝わってきた。また、お友達との宿泊を楽しみにしているグループやバイキングの食事を楽しみにしているグループなど、映画創り以外にも交流の家での宿泊も楽しみにしていた。

藤岡講師からは「7つのグループに分かれているが、1つのチームとして他のグループの撮影に協力し合い作品の完成を目指そう!」という話があった。



事前に参加者には、テーマに沿ったシナリオ作成（あらすじ・ストーリー）や役者割り、撮影場所などをグループで話し合い、課題のプリントを提出してもらっていた。子ども達にとっては表現したいことを文字として書き出すことが難しかったようで、「うれしかった」「たのしかった」という表現に対し、「どんなふうに?」という具体的な事をイメージさせ、作品を見てくれる人の気持ちを考え、講師の先生方のアドバイスをもらいながら、何度もシナリオを書き直していた。そして、1日目の終わりには、全てのグループが原稿用紙4～5枚の台本を完成させた。2日目は撮影日になるため、撮影に必要な小道具作りや、撮影場作りもグループで協力しあって創り上げていた。また、カメラワークや、セリフの練習を行ったりする班もあった。

～2日目～

今回のアジア国際子ども映画祭のテーマが【学校の先生】ということもあり、全ての班に教室のシーンがあった。地域の小学校の協力もあり、半日貸し切りで、教室、体育館、グラウンドなどで撮影を行った。教室、廊下、トイレなどそれぞれ近くで撮影を行っているグループも、互いの撮影時には物音をたてないように撮影を行っていた。撮影した映像を確認し、イメージと違うと、何度も撮り直しをし、納得がいくまでカメラを回していた。



夕方のシーンがあるグループは太陽が沈み始める時刻に合わせて撮影に入った。十分にセリフの練習を行い、太陽に合わせて撮影を行っていたが、NGを出してしまい、撮り直しをしなければいけなくなると、「太陽が沈んでしまう!」「集中しよう!」という言葉も出た。撮り始めから比べると演技力は何倍にも成長した。

夜のプログラムでは、すべての班が編集作業に入ることが出来た。全ての映像をつなげるとほとんどのグループが、6分の作品になった。なかなか自分のセリフの入ったシーンを削除することが出来なかったが、グループの中で『伝えたい事』をもう一度確かめ合い、シーンの削除、部分削除と編集を行った。



～3日目～

午前中は、3分以内の作品を目指す編集作業を行った。どのグループもパソコン画面とにらめっこをしていた。また、「せみの声」「目覚まし時計」などの効果音を加えたり、構成を考えたりしながら、編集作業にも力が入った。タイトル、エンドロールも入り作品が完成すると、子ども達から満足のいく表情と安堵感が伝わってきた。午後からは、多くの保護者の方とともに試写会を行った。講師の先生方から、子ども達のシナリオ作成、撮影、編集にかかる苦労に対し賞賛の言葉をいただいた。作品の見どころや、工夫されたシーンの講評の言葉が印象的だった。



9 参加者の声

- ・3分の作品を作るのに3日間もかかりTVで見ているドラマや映画を創ることがとても大変なことが分かった。
- ・映画を創る人の苦労が分かった。
- ・みんなで協力しないと作品を創ることが出来ないことが分かった。
- ・映画を創ることが初めてで楽しかった。
- ・編集が楽しかった。
- ・また、来年も参加したい。



10 所感

今年度は参加者が全て小学生という事で、作品の完成に関しては不安があった。しかし、どの班も事前にグループ内で話し合いをしていたこともあり、順調に作品を完成させることが出来た。

また、集中力や生活面に関しても各班のボランティアスタッフのサポートにより、子ども達も安心して3日間を過ごすことが出来ていた。

台本づくり、撮影、編集作業などみんなで協力し合う事の難しさをどのグループの子ども達も学んでいた。